

温泉の入浴効果、東海大生が豊後高田市で調査

2019/09/01 03:00

おすすめ 0 ツイート

東海大海洋学部海洋文明学科（静岡市）の学生5人が8月30日、豊後高田市内の温泉施設3カ所で「新・湯治」の効果測定のアナケート調査に取り組んだ。

新・湯治は多忙な現代人のライフスタイルに合わせた温泉の楽しみ方として環境省が推奨。入浴効果や温泉地での多様な過ごし方を全国各地で調べている。

市内美和の花いる温泉では、学生たちが利用客に声掛けし、アナケートに記入してもらった。9月1日まで調査し、協力者には温泉タオルをプレゼントする。

4年の山田慎さん（21）は「早く回答してもらってありがたい。調査結果は環境省に報告する。豊後高田の観光振興策にも役立ててもらえればうれしい」と述べた。

調査を指導する斉藤雅樹学科長は「短期の湯治でも心身の健康増進に効果があることが昨年の調査で分かっている。豊後高田は日帰り客が多いのでさらにデータを集める」と話した。



利用客の声を聞き取る東海大の学生（左）



※この記事は、9月1日大分合同新聞朝刊17ページに掲載されています。